

統計品質改善会議（第1回） 議事概要

1. 日時：令和4年9月15日（木）10:00-12:00

2. 場所：中央合同庁舎3号館3F総合政策局局議室

3. 議事概要：

【藤井事務次官より冒頭挨拶】

- 国土交通省では、建設工事受注動態統計調査の不適切処理の問題を受け、国土交通省の所管する統計の点検、再発防止策の検討を進めてきたところ。
- 8月10日に開催された第6回タスクフォースにおいて、「国土交通省統計改革プラン」を取りまとめ、「開かれ、使われ、改善し続ける統計」を基本原則として、再発防止、統計の品質改善に向けた取組の基本的な方向を示した。また、令和5年度概算要求においても、「集中的な統計改革の推進」として新たに3億円の予算要求もしているところ。引き続き、国土交通省として、公的統計の信頼回復を目指して全力で取り組んでまいりたい。
- 統計改革の推進にあたっては、所管統計におけるPDCAサイクルの確実な実施とユーザー目線に立った不断の見直しを進めていくとともに、タスクフォースでも有識者の先生方から御指摘いただいている通り、統計を各分野の政策立案・実施に活用し、統計業務に関わる者の統計作成への意識を高めることが重要。
- さらに、現在政府全体でDXの推進が課題になっており、統計の分野でDXを推進することは、統計自体の正確性を増すという点でも、あるいは統計の作成を効率化する上でも非常に重要であり、しっかりと検討してまいりたい。

【資料説明】

- 事務局より、統計品質改善会議の運営、所管統計の改善についての検討課題、建築着工統計調査のデータ処理の方法、港湾調査の改善の方向性について説明するとともに、トラック輸送情報の廃止、統計の誤りへの対応等について報告を行った。

【委員からの主な質問・意見】

<建築着工統計調査について>

建築着工統計の工事費調査の推計方法について、資料6に沿って御質問・御議論いただくとともに、今後の精度向上等統計の品質改善に向けた検討事項として、次のような御意見・御指摘をいただき、必要な修正を反映した上で資料を公表することとした。

- 令和3年に完成予定でありながら、令和3年に完成しなかった建築物や、令和2年に完成した建築物をどのように加味して工事完成率を導くべきか、考え方については整理が必要ではないか。

- 調査票では建築物の構造変更も把握していると思うが、調査の設計段階と実査の段階で層が移る建築物の取扱いについては、今後の推計の課題ではないか。
- 建築工事費調査のサンプリングや抽出率など調査設計の詳細を改めて整理して、今回の調査の振り返りを行った方が良い。調査フローを変更したときの狙いも改めて確認してほしい。
- ユーザーからも意見を聴取した方が良い。
- 行政記録情報と突合してデータの妥当性をチェックできる仕組みがあると良い。
- 調査設計に関して、構造の細分化や地域別の分析等についても今後検討いただきたい。建築物の品質の差をさらに詳細に把握するとともに、それによって外れ値の出やすい層も把握できると良い。
- 未完了建築物や前倒しで完成した建築物の情報も有用なものと考えられるので、時系列での情報の把握をしていただきたい。
- 比推定を用いた方法については、今後に向けて、引き続き丁寧に検討を行っていただきたい。外れ値処理を行う部分については、丁寧な説明を心掛けてほしい。
- 完成予定が年度を跨いでずれた場合に、その情報を把握するための調査や仕組み、数値の処理プロセスの工夫が必要なのではないか。
- 建築工事費調査は建築着工統計と深く関係する調査なので、建築着工統計の外れ値の処理との関係性も考慮していく必要がある
- ロバストな手法を使う大前提として、データクリーニングをしっかりと行う必要があるという点を意識してほしい。

以上